

後記

今月は、幼児教育における評価の問題をとりあげてみた。

先生の評価記入は極秘より

幼児の評価には先生の分も入り

要録の評価同じにも書けないと先生いい

記入済みの要録、甘からせんべいの味がする

指導要録を記入して先生は天地俯仰する

—倉橋惣三先生赤インキ川柳集より—

これは指導要録についての倉橋先生の川柳で、本誌の四月号二十七頁に掲載してある。子どもの評価は、教師が子どもに点数をつけたり、あるいは高いところから見下して批評を下したりしているのではないことはもちろんである。それはもつと我々の幼児教育の営みを向上させ、子どもに対して我々の最善を与えるため

の工夫に他ならない。

したがって、指導要録に形式的に点数を記入して、それで最初の最後になるような評価は、何の意味もない。我々に必要なのは、毎日、ひとりひとりの子どもがどういう風に発達し変化してゆくか、その道程をよく注意しながら適切な指導をしてゆくことなのである。どういうように子どもが伸びているかを、よく見ながら毎日を進めることである。そういう記録を保存し、綴っておくならば、その時の指導に役立つばかりでなく、後に他の人が指導する場合にも、その子どもを理解するのに役立つであろう。そしてそのためには、今後もつと技術的な工夫を積んでゆくことも必要である。

義務的に指導要録を記入することで終らせないで、もつと根本的に、どのようにしたら日々の保育をもつと有効に進めてゆくことができるかを考えねばならぬ。

× × ×

幼児の教育

第五十五巻 第七号

定価 五十円

昭和三十一年六月二十五日印刷

昭和三十一年七月 一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社フレイベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
フレイベル館にお願い致します。